

あなたの声をお寄せください

三沢漁港施設の壊滅的な被害など数々の被害があり、私たちに物心両面の甚大な被害をもたらしました。

東日本大震災後も、広島土砂災害、御嶽山・草津白根山の噴火、熊本地震、昨年の九州北部豪雨、そのほかにも台風や豪雪など多くの自然災害が起きています。これら自然災害の発生を防ぎきることはできませんが、その被害を最小限に抑えることは可能です。

震災から7年余りを経た今、私たちが経験したことや様々な想い・記憶は、日々薄れていき、語られることも少なくなってきましたが、このことは、しっかりと後世に伝えていかなければいけません。そして、この辛い経験を教訓として、防災教育・防災訓練の徹底やハード面の整備をはじめとして自然災害からまちや住民を守るための取組を本気で進めていく必要があります。

ご意見、ご感想、ご要望など「あなたの声」をお寄せください。皆様から頂戴したご意見等は、ご本人様のご了承を得た上で、内容に応じてご紹介させていただきます。

行政手腕が問われている

市政の話になると、今の市長は何をやっているのかよく分からないという話を聞きます。行政のトップは選挙で公約を掲げ当選したら具体的に計画・スケジュールと数値目標を立て予算を確保して実行し、そして次の改選期には結果を公表し審判を仰ぐ必要があります。

なるべく借金をしないで政策を実行するには、国や県などへの協力な要望や政治力・人脈をいかした積極的な行動力が必要であり、議会や市職員など総力を挙げて取り組んでい

かなければならないと思うが、一市民から見ればそのように努力しているようには見えないと思うのは私だけだろうか。

弘前市長等が市民との約束をし、実行しそれをアンケートなどで評価してもらうなど一懸念街づくりに取り組んでいる姿がとても素晴らしい。

三沢市でも新しい道路や建物もできているが特に箱物は、何のたに作るのか、作ったらどのように活用するか、それが市民にとってどのように役に立つのかなどを具体的に示さなければ一時的な経済効果だけで、維持管理費など後世につけを残すだけである。

マンネリ化した市政では一部の人の利益だけを指しているように、市民にとってはまことに不幸であり三沢

市の将来が案じられる。(三沢市 WT)

鈴木重令氏を偲んで

氏がご逝去され10年以上が経過し、改めて氏の功績を振り返ってみたい。

特に街づくりの根幹となる道路整備については、岡三沢温泉から農協周辺を結ぶ道路の延伸、三沢空港から市立病院への連絡道、市街地から春日台へのアクセス道、また、今完成を見ようとしている駒沢バイパス等いずれも市の発展につながる大事な事業であり、氏でなければ成し得なかったのではないかと思う。これらの事業の素晴らしいと思うことは、防衛省の補助事業で施工したり、青森県に事業主体として実施してもらったり、出来るだけ市民の税金を費やすことなく進められているところで、氏の行政手腕が卓越していることを示すものである。

また、南山地区の国際交流センター、サッカー場、新体育館の整備等については、市民の教育の充実やスポーツ振興は勿論の事、高等教育機関の誘致を見据えた環境整備の一環であり、市の将来計画を実施すべく思いを巡らしている途中でのご逝去は非常に残念なことである。

三沢駅再開発！？

高等教育機関の誘致については、少子化の現在、実現が厳しい現状ではあるが、三沢市の街づくりに多大な功績を遺した氏の行政手腕に敬意を表するとともに、心からご冥福をお祈りするものである。(後に続く人材が現れることを期待する三沢市民)

三沢駅周辺の整備に提案がある。三沢空港利用促進協議会があるように、この地域の交通基盤の整備を進めるための運動を隣接市町村とするべきだ。特に青い森鉄道と新幹線を

確実に接続させ、歴史ある三沢駅を利用する人達の利便性を高め滞留人口を増やすべきだ。もう一つは、県内の10市のうち新3市を除いて黒石市やむつ市まで、商工会から商工会議所へと昇格している。この機会に、三沢市商工会から商工会議所に昇格させ、ぜひ自前で老朽化した旧十和田観光電鉄三沢駅を新三沢商工会議所ビルに建て替え、三沢駅周辺の活性化を図るのに一役買ってもらいたい。その結果『あの味のいいそば屋さん』が繁盛することとなり、一石三鳥の効果が見えてくる。(駅そばを愛する人)

あなたの声をお寄せください
FAX : 0176-58-7355
ホームページ
http://www.suzukishigemasa.com/
(討議資料)



鈴木しげまさ通信

温故考新

年が明けて、大島理森衆議院議長の年頭所感の中で「歴史を学び、新元号時代への準備を行うとともに、そのあるべき姿を考える温故

『考』新年にしたい』との言葉を目にして、まさに言い得て妙だなあと感心していたのもつかの間、早いもので新年度を迎えました。



未来への挑戦 そして責任

発行人 鈴木重正
三沢市松園町1-11-3
Tel.0176-53-2409
第006号

平成30年の今年、三沢市制施行60周年、明治150年の節目の年です。そして、実質的には平成最後の年となり、来年には元号が変わり新しい時代を迎えることとなります。新しい時代はどんな時代になるのでしょうか？ 明るい未来は待っているのでしょうか？

これから迎える新しい時代は、少子高齢化・人口減少が進み、私たちが経験したことのない厳しい時代になっていくでしょう。

例えば、三沢市の高齢者福祉計画・第7期介護保健事業計画の中では、三沢市の総人口と高齢者数の将来推計について、平成29年の総人口4万1666人・高齢者数9864人(高齢化率24.6%)が、平成32年には総人口3万8819人・高

齢者数1万365人(高齢化率26.6%)、平成37年には総人口3万6387人・高齢者数1万732人(高齢化率28.6%)、とさ

◆

これまでも、国・県・三沢市では一生懸命に様々なことに取り組んできましたが、短・中期的には少子高齢化・人口減少は確実に進んでいきます。私たちに示されている未来は決して明るいものではないかもしれません。今のまま、これまでどおりでは駄目なのです。抜本的な対策は国で講じていく必要がありますが、地方は地方の良さを打ち出していき、自分たちのまちを今一度見つめ直して、特色を活かした持続可能なまちをつ

くつていかなければいけません。次代を担う子どもたち・孫たちのために、新しい時代をしっかりと考えて創

ていくことが私たちに与えられた責任です！
故きを温ねてみれば、三沢市が築き上げられてきた歴史の中(特に人口の動きの観点から)で大きなポイントとなるのが三つあって、それはすなわち三沢市の大きな特色でもあると思っ

◆

まず一つ目は、150年前に明治という新しい時代を迎えて、それまでの地域に住んでいた藩の牧場管理をして農業を営んでいた人たち約100戸に加えて、海岸沿いに漁業を営む人たちが約100戸移住してきて、更に、全く異なる文化を持った旧会津藩士が約100戸移住してきました。わずか数年の間に戸数が3倍になった、ここからこの地域の発展が始まりました。

◆

二つ目は、明治27年の古間木駅開業です。古間木駅が開業したことによって人や物の流れが大きく変わり、こ

れまでの農業、漁業に加えて商業などの仕事もできて人が集まってくるようになりました。
そして三つ目は、昭和20年終戦を迎えて旧海軍の三沢飛行場が米軍に接収され、翌年から米軍基地の建設工事が始まったことです。基地建設工事に伴って人口は急増し、昭和23年に人口2万3027人で大三沢町が誕生。以後急速に都市化が進んで、町から市へと発展し、昭和33年に人口3万5911人の三沢市が発足しました。

◆

その後ピーク時にはおよそ4万4000人となった三沢市の人口が、前述したとおり平成37年には市発足当時の人口水準になると推計されており、本当に厳しい未来が示されている状況にあるのです。私たちは、責任を持ってこれから厳しい未来に挑戦していかなければいけません。
…次号に続きます。

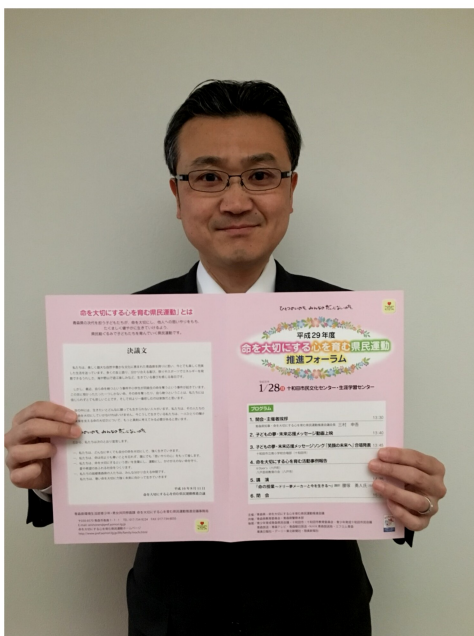
しげまさ日記

地域と共に！

命を大切に

平成30年1月28日、十和田市民文化センターで行われた、青森県主催の「命を大切に」をテーマにしたフォーラム」に参加しました。

「命を大切に」をテーマにしたフォーラム」に参加しました。青森県では、平成29年度から、地域全体で子どもを見守る環境づくりを進め、地域の大人が子どもたちを見守っているというメッセージを伝えることで、子どもたちの孤立感の解消や明るく前向きに未来へ進んでいく気持ちを育んでいくため、「輝く笑顔推進キャンペーン」として制作された子ども



「命を大切に」をテーマにしたフォーラム」に参加しました。青森県では、平成29年度から、地域全体で子どもを見守る環境づくりを進め、地域の大人が子どもたちを見守っているというメッセージを伝えることで、子どもたちの孤立感の解消や明るく前向きに未来へ進んでいく気持ちを育んでいくため、「輝く笑顔推進キャンペーン」として制作された子ども

「命を大切に」をテーマにしたフォーラム」に参加しました。青森県では、平成29年度から、地域全体で子どもを見守る環境づくりを進め、地域の大人が子どもたちを見守っているというメッセージを伝えることで、子どもたちの孤立感の解消や明るく前向きに未来へ進んでいく気持ちを育んでいくため、「輝く笑顔推進キャンペーン」として制作された子ども

今を生きる」と題した講演が行われ、子どもからお年寄りまで約300名の参加者が腰塚先生の体験に基づいた真実の言葉に聞き入っていました。

最後に、子どもの夢・未来応援メッセージソング「笑顔の未来へ」の歌詞の一部をご紹介します。

「：笑えない笑えない日々もいつかは笑い飛ばせるさ 涙で見えない今日があってもいいんだよ 愛して愛してあげようよ誰よりも自分のことを そしたらいつか空に虹がかかるんだ 誰もが誰かにとってさ大事な大事なあなたです 必ずひとりじゃない笑顔の未来が待ってる：」

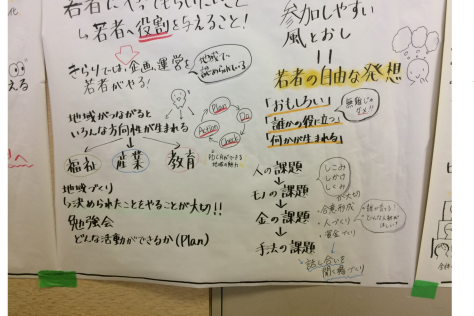
子どもたちの笑顔のために、明るい未来のために、大人たちがしっかりと生きていかなければいけませんね！

町内会の活性化

三沢市主催の町内会活動活性化セミナーが2月23日、三沢市公会堂で開催されました。

「世帯加入率100%！住民が創る持続可能な地域づくりと担い手育成」をテーマにNPO法人きらりよしじまネットワークの高橋由和事務局長による講演を聞き、地域の未来と次世代の地域を担う人づくりについて考えました。

きらりよしじまネットワークは、山形県川西町吉島地区の全世帯が加入するまちづくりNPO法人で、①地域づくりに必要の視点と知識が必要となってくる、②明確な地域づくりのビジョンを持つて住民参加のかたちをつくる、③多



様々な資金獲得が可能となる、④行政と対等の協働を実践することができるとの考えから任意団体ではなくNPO法人を設立して活動を始めたそうです。そのマネジメントや合意形成のシステム、人づくり、資金づくりなど学び、気づきの多い、大変貴重な話しを聞くことができました。また、会場では、三沢高校の女子生徒2名がグラフィック・レコーディングに挑戦、その見事な出来栄に感動しました。

防災や防犯、環境、福祉など様々な分野で重要な役割を果たし地域コミュニティの核となる町内会ですが、三沢市では加入者も年々減少傾向にあり、また高齢化も進むなど、それぞれ町内会で課題を抱えている状況にあると感じています。また、ちづくりのビジョンをしっかりと示して、その中で町内会の果たすべき役割を共通の認識として、今後の町内会の在り方を早急に考え、対応していく必要があります。

自衛隊記念式典

最新鋭のステルス戦闘機F35Aが航空自衛隊三沢基地に配備されたその記念式典が2月24日に同基地で開催され、式典には、小野寺五典防衛大臣、ジョセフ・M・ヤング在日米大使館首席公使をはじめとして多くの来賓が出席。小野寺防衛大臣は、北朝鮮の核や弾道ミサイル開発のほか、中国やロシアが軍事力を増強して活動を活性化させていることに触

れて、「我が国の安全保障環境は戦後最も厳しいと言っても過言ではない。F35A配備の意義は極めて大きいものがある。」と述べられていました。F35Aは、三沢基地に平成29年度にまず1機配備され、来年度中に9機、最終的には計42機・2個飛行隊体制となる計画です。



翌25日には、同じく航空自衛隊三沢基地で行われた第3航空団創設60周年記念式典・祝賀会に出席。第3航空団は、昭和32年に松島基地において新編されて、33年に小牧基地へ移駐、その後昭和53年に現在の三沢基地に移駐して、創設60周年、三沢基地移駐40周年を迎えました。三沢市史によると、第3航空団の移駐完了によって三沢基

地は、隊員が約2300人の大基地となり、家族をあわせて5000人を超えることになったそうです。

我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、日本の平和と安全を守るために危険を顧みず日夜任務に精励されている隊員の皆さん、隊員の皆さんを支えておられるご家族の皆さんに心から敬意を表します。皆さん、ありがとうございます！

卒業式

3月1日に青森県立三沢高等学校、3月20日には三沢市立木崎野小学校の卒業式に出席させていただきました。送られる卒業生、送る在校生ともに立派な姿で厳粛かつ感動的な素晴らしい卒業式でした。どちらも母校であり、自分の頃のことを思い出して、今どきの後輩たちはしっかりと

し自主的に行動せよ、師や友を敬愛し共に携え真実を求めよ 誠実・自主・敬愛の校訓を改めて胸に刻んできました。そして、その足で大人への第一歩となる新たな道を歩み始める卒業生と自分自身に対して、『この道をいけばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となる

り、その一足が道となる。迷わず行けよ、行けばわかるさ。』との言葉を心の中で贈りました。その夜は、卒業祝賀会にもご案内いただき、卒業生の保護者の皆さん、教職員の皆さんらとともに楽しい時間を過ごしました。

木崎野小学校では、目を閉じるとその情景がはっきりと浮かんでくる、とても素敵な校歌「一 遠いむかし 見わたすかぎり 牧場だった木崎野 ぼくの学校はそこにたっている 二 今ものこる 赤松林 仔馬が巣立った木崎野 わたしの学校はそこにたっている 三 松のみきに 耳

東日本大震災慰霊追悼

あれからもう7年の年月が経ちました。3月11日、浜三沢の玉泉寺で東日本大震災慰霊追悼法要が執り行われました。生きたくても生きることが出来なかった命、犠牲となられた方々へ静かに鎮魂の祈りをささげました。

日本大震災は、生涯忘れることのできない大きな傷痕を残しました。

三沢市においても、震度4の地震を観測、波の高さ最大7.4メートルと推測される大津波によって2人の尊い命が犠牲となったほか、

三沢高校では、「未来に向かって今を誠実に努めよ、厳しく己を律



三沢高校では、「未来に向かって今を誠実に努めよ、厳しく己を律

三沢高校では、「未来に向かって今を誠実に努めよ、厳しく己を律

三沢高校では、「未来に向かって今を誠実に努めよ、厳しく己を律

